科目名（Eng）	日本語特論Ⅰ（Japanese Language Seminar Ⅰ）								
担当教員	高橋 圭介								
対象学年等	学科・学年		授業期間・区分・単位数・時間数				分野	形態	学修単位科目
	一般科目コミ	3	通年	必修	2	(60)	一般	A	
目標基準との対応	福島高専の教育目標との対応：(F-1). (F-2).								
	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：6).								
授業の概要と方針	１、２年の学習を踏まえ、より高度な評論文の読解を行う。また、教科書レベルを超えた評論、さらには語彙に関する問題も取り扱い、４年以降の学習、研究に備える。								
到達目標	①評論文で展開されている主張を正確に把握できる。 ②評論文の主張に対して自らの意見を持ち、それを明確な日本語で表現することができる。 ③評論文を読み解く上で必要な語彙力を身に付ける。								

授業計画

	週	授業項目	理解すべき内容	事前学習
前期	1	随想「カフェの開店準備」	随筆の特徴	授業の前に本文を一読し、漢字の読み、語句の意味を調べておく。また、事前に課題が出された場合は、必ず実施し、授業開始時に提出できるようにしておくこと。
	2	随想「カフェの開店準備」	行為の習慣化	
	3	問題演習１	評論文を読解する上での留意点、言語問題の解法	
	4	評論「個性とは何か」	心と個性	
	5	評論「個性とは何か」	身体と個性	
	6	評論「個性とは何か」	自己意識について	
	7	問題演習２	評論文を読解する上での留意点、言語問題の解法	
	8	日本語「自称詞（一人称）と	自称詞「ひと」の用法	
	9	日本語「自称詞（一人称）と	相手依存の相対的自己規定	
	10	評論「人は何のために生きる	人はなぜ「人生の意味と目的」を問うのか	
	11	評論「人は何のために生きる	個体発生的要因と時代的要因	
	12	評論「人は何のために生きる	人の生きる意欲を支える原理	
	13	日本語「敬語への自覚、他者	「敬語への自覚」と「他者との距離」	
	14	日本語「敬語への自覚、他者	敬語の復習	
	15	テスト返却、解説	テスト問題の解説	テスト問題を持参。
後期	16	評論「法の精神」	「私的正義」と「公的正義」の表裏一体性	授業の前に本文を一読し、漢字の読み、語句の意味を調べておく。また、事前に課題が出された場合は、必ず実施し、授業開始時に提出できるようにしておくこと。
	17	評論「法の精神」	「法的正義」と正義の尺度	
	18	問題演習３	評論文を読解する上での留意点、言語問題の解法	
	19	日本語「レトリック感覚」	レトリックについて	
	20	日本語「レトリック感覚」	直喩の本質	
	21	日本語「レトリック感覚」	「レトリック感覚」とは何か	
	22	問題演習４	評論文を読解する上での留意点、言語問題の解法	
	23	評論「不易流行」	日本社会における「不易流行」	
	24	評論「不易流行」	「不易流行」と「無常」観	
	25	問題演習５	評論文を読解する上での留意点、言語問題の解法	
	26	評論「『である』ことと『す	「権利の上にねむる者」	
	27	評論「『である』ことと『す	社会制度と「である」こと、「する」こと	
	28	評論「『である』ことと『す	日本の急激な近代化	
	29	評論「『である』ことと『す	価値倒錯の再転倒	
	30	テスト返却、解説	テスト問題の解説	テスト問題を持参。

試験について	中間試験：共通科目試験日に50分の試験を実施する。期末試験：50分の試験を実施する。
評価方法	定期試験の成績を70%、小テスト・課題・平素の成績等を30%として評価する。
教科書	『現代文１』大修館書店、『頻出現代文重要語700（改訂版）』桐原書店
参考書	国語辞典
関連科目	「日本語１」、「日本語２」、「日本語特論Ⅱ」
履修上の注意	『頻出』に基づいた小テストを計20回実施する。定期試験では教科書レベルを超えた文章を出題することがあるので、日頃からさまざまな評論文に接するよう心がけること。